

取組の方向性

1

若者の自立支援

現状と課題

子ども若者総合相談「アシスとしま」では、就労や学校、家族関係、生活習慣など、若者やその家族から多種多様な相談が寄せられています。核家族化や地域コミュニティの希薄化、教育の高度化・細分化や働き方の多様化等により、若者の孤独や孤立が高まっています。

令和5年度に実施したアンケート調査においても、若者の49.3%が「社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなった経験がある」と回答しています。また、「自分はまわりから取り残されていると思う」と回答した若者は21.4%、「自分には話せる人がいないと思う」と回答した若者は19.7%、「自分はひとりぼっちだと思う」と回答した若者は16.1%、「自分が役に立たないと強く感じている」と回答した若者は40.8%であり、若者の孤独や不安及びそれに伴う無力感が子どもと比べて大きいことが伺えました。若者の自己肯定感を育み、自己効力感を高めて主体的な生活を送るための支援が求められます。

そのためには、若者の抱える多様な悩みや困難を受け止め、若者本人を尊重しながら、健康や日常生活、就労等、必要な支援をしていくことが重要です。

方向性

若者それぞれが自らの人生を主体的に送れるよう、一人ひとりの気持ちに寄り添い、健康や日常生活、就労など、必要な支援を実施していきます。

健康や日常生活の支援としては、情報の提供や啓発活動、病気の予防や早期治療に繋がる各種健診サービスの提供、体の健康や心の悩みを聴く相談窓口での支援など、若者の生活力向上に繋がる事業を実施していきます。

また、就労への支援が必要な若者に対しては、就労に向けたスキルアップや、インターンなどの就労体験ができる機会の提供、就労に関する悩みや不安に関する相談窓口の設置など、若者が経済的に自立できるよう、就労の観点から、若者の成長を後押しするさまざまな取組を進めていきます。

計画の進捗を測る指標

指標名	現状		目指す方向性(令和11年度)
自分のことが「好き」と回答した若者の割合	令和5年度	65.0%	
今までに社会生活や日常生活を円滑に送ることができなくなったことが「ある」と回答した若者の割合	令和5年度	49.3%	
自分には「話せる人がいない」と回答した若者の割合	令和5年度	19.7%	
不安に思うことや困っていることを相談でき、虐待や体罰、いじめなどにあったときは助けを求めることができると回答した若者の割合	令和5年度	75.7%	

根拠: 計画策定のためのアンケート調査

具体的な取組

1 日常生活への支援

● 計画事業

事業名	事業目標
133 中高生センタージャンプにおける子ども・若者の生活力向上のための取組 担当課 子ども若者課	中高生センタージャンプにおいて、各種若者支援団体による定期的な啓発・相談事業により、トラブルを回避し健康的な生活を送る能力を身に着ける機会を提供します。
134 若年者向け(40歳未満)健診事業 担当課 健康推進課	法的な健康診査の位置付けがない若年層の方を対象に、健康課題に合わせた疾病予防や健康づくりのため、生活習慣病予防健診(男性)、女性の骨太健診を実施しています。
135 子宮頸がん検診 担当課 地域保健課	子宮頸がんの早期発見・早期治療のため、年度末時点で20歳以上偶数年齢の女性を対象に、子宮頸がん検診を実施します。本検診は、2年に1回の定期的な受診を推奨しています。
136 子ども・若者への消費者教育推進事業 担当課 産業振興課	消費生活に関する知識を修得し、適切な行動に結び付けられるよう消費者教育を実施します。
137 自殺・うつ病の予防対策 担当課 保健予防課	相談窓口一覧の作成による普及啓発や、ゲートキーパーの養成とネットワーク化による地域連携体制の構築を行います。若者の自殺対策として大学院生と協働したハートプロジェクトの実施、自殺・うつ病の予防対策委員会によるデータの分析や活動の評価、改善策を検討します。
138 DV・デートDV防止のための周知啓発事業 担当課 男女平等推進センター	区立中学生等を対象とした「デートDV予防:わたしとあなたを大切にする教室」の実施など、若年層に対してデートDV防止に関する周知啓発事業を行うことで、将来の配偶者間のDV発生防止を図ります。

計画の基本的な考え方

子ども・若者と家庭を取り巻く状況

施策の方向

第三期子ども・子育て支援事業計画

計画の推進に向けて

資料編

2 経済的自立への支援

● 計画事業

事業名	事業目標
85 新規 被保護者次世代育成支援事業 担当課 生活福祉課 西部生活福祉課	【再掲】(92ページ)
139 就業支援事業 担当課 産業振興課	
140 自立相談支援事業 (くらし・しごと相談支援センター) 担当課 福祉総務課(自立支援担当課長)	専門の相談員がお困りごとを整理したうえで、それぞれの方にあった支援プランを作ります。 他の関係機関などと連携し、課題解決に向けた支援を行います。
141 就労準備・社会参加支援事業 担当課 福祉総務課(自立支援担当課長)	「仕事をすることがない」「離職期間が長期にわたる」等の理由で、早期の就労に不安のある方に対し、個別面談、セミナー、体験就労などを通じ、自立に向けたオーダーメイドの支援プランを作成し支援をします。

コラム 15: 自殺・うつ病の予防対策

本区内における自傷行為による救急搬送数及び自殺者数は20歳代が最も多く、自傷行為による救急搬送数は年々増加傾向にあります。

このような現状から本区では、区内大学院生と協働し、自殺予防ワークショップ、啓発資料の作成、相談会の開催など、若者の視点を取り入れた自殺予防対策を進めてきました。加えて、20歳代30歳代の方にメンタルヘルスリーフレットを配布、こころの健康づくりに関する講演会を開催するなど、セルフケアができる人を増やすことを目指しています。

また、自殺のサインに気づき、声をかけ、必要な支援につなげ見守るゲートキーパーや、精神疾患を正しく理解し、こころの不調に寄り添う心のサポーターを養成し、身近な相談者を増やす取り組みを進めています。



ゲートキーパー講座

若者の社会参画支援

現状と課題

令和5年度の若者を対象として自分の居場所を尋ねたアンケート調査では、「自分の部屋」が81.8%、「家庭」が58.2%である一方、「学校」は21.1%、「職場」は12.1%、「地域」は13.2%に留まり、「インターネット空間」を居場所として回答した若者は30.7%でした。これまでに地域活動に参加してことのある若者は43.9%であり、地域や社会とのつながりが希薄であることが伺えます。これに起因する個人や家族の孤立や家庭教育・学校教育の格差等により孤独や生きづらさを感じる若者が増えています。

豊島区では、こういった若者のうち、困難を抱える若年女性を早期に支援につなげていくための情報発信や研修等の取組である「すずらんスマイルプロジェクト」を企業や民間支援団体等と連携・協働して進めています。若者が主体的に成長していけるように更なる仕組みの構築が求められています。

地域の中にどのような場所があるかについては、「気の合う同士でおしゃべりしたり、ゆったり過ごせたりする場所」と回答する若者が55.7%で最も多く、「自分のペースで静かに学習できる場所」が54.3%、「野外でからだを動かしてスポーツや活動できる場所」が50.4%と続きました。

方向性

自宅と学校、職場以外での若者のつながりを充実化させるため、若者が安心して自由に過ごす居場所の提供や相談支援、その他、企業やNPO等と連携して若者の居場所や活動の場について意見交換や調査研究等を行いながら検討を進めていきます。

豊島区内の施設での若者の活動支援や、学びの場の提供を行います。また、地域活動や選挙等、社会参加の機会や情報の提供を行い、若者の社会参画を支援します。

計画の進捗を測る指標

指標名	現状		目指す方向性(令和11年度)
若者がホッとできる居場所として「地域」と回答した割合	令和5年度	41.4%	↑
若者が「自分が役に立たないと感じている」と回答した割合	令和5年度	40.8%	↓
地域活動・イベント・ボランティア等に参加したことがあると回答した若者の割合	令和5年度	45.7%	↑
国政選挙や地方選挙に行っていないと回答した若者の割合	令和5年度	15.7%	↓

根拠：計画策定のためのアンケート調査

具体的な取組

1 居場所・活動の場の充実

● 重点事業

事業名	事業目標	事業内容
142 中高生センタージャンプの若者支援 担当課 子ども若者課	18歳以上の困難を有する若者を支援します。	中高生センターにおいて、高校を卒業したOB・OG世代への進路の変更や転職・就職に関する相談や、若者の社会貢献活動への支援を実施します。また、中高生の利用者が少ない時間帯に施設の一部に若者の居場所をつくれます。
目標	現状値(令和5年度)	目標値(令和11年度)
登録者数	60人	80人
延べ利用者数	1,637人	1,800人
相談件数	544件	600件

● 計画事業

事業名	事業目標
143 若者学びあい事業 担当課 生涯学習・スポーツ課	「みらい館大明」において、若者が気軽に立ち寄れる居場所として、「ブックカフェ」を週6日、NPOと協働で開館しています。コーディネーターを配置し、若者が地域で活動するきっかけづくりやサポートも行っています。
144 としまコミュニティ大学 担当課 生涯学習・スポーツ課	豊島区と区内7大学(学習院大学・川村学園女子大学・女子栄養大学・大正大学・帝京平成大学・東京音楽大学・立教大学)が協働で事業展開している人づくり・活動づくり・地域づくりのための総合的な学びの場です。
145 区立図書館におけるYA向けの取組 担当課 図書館課	区立図書館においてYAコーナーの図書充実や、利用者との情報交換のための掲示板設置、YA向けイベントや企画展示の実施などにより、子ども・若者の読書活動を促進します。
146 新規 若者の居場所創出事業 担当課 子ども若者課	困難を抱えた若者が気軽に集い、相談やつながりを作ることができる居場所を提供することで孤独・孤立の解消および予防を図り、自立や社会参画に向けた安定的で継続した支援を行います。また居場所を起点として周辺地域の賑わいを創出し、豊島区の魅力を高め持続的な発展を実現します。

2 社会参画の推進

事業名	事業目標
147 選挙普及啓発事業 担当課 選挙管理委員会事務局	小中学校・高校・大学における選挙に関する出前講座や模擬選挙の実施及び選挙物品の貸出、マンガ家のデザインしたポスター等の普及啓発媒体の作成、若者を選挙立会人に選定することなどを通じて若者の選挙に対する関心を高め、投票率の向上につなげます。
148 地域防災力向上事業 担当課 防災危機管理課	消防団の加入や地域での防災訓練・防災講座への若者の参加を促進し、新たな地域防災の担い手の創出に取り組みます。また、PTA等と連携し、小中学校を対象とした防災授業や地域の防災講話、防災イベントを通じて、防災意識の向上を図ります。
143 若者学びあい事業 担当課 生涯学習・スポーツ課	【再掲】(110ページ)
149 新規 すずらんスマイルプロジェクト 担当課 男女平等推進センター	生きづらさを抱える10代・20代の若年女性の困難な問題や状態に早い段階で気づき、区の相談窓口や施策、関係機関や民間支援団体等による適切な支援につなげていくため、当事者に届けるための情報発信や、職員のスキルアップに向けた研修、企業や民間支援団体等と連携・協働した取り組みを実施します。

コラム 16:すずらんスマイルプロジェクト

10代・20代の生きづらさを抱えた若年女性を「たしかな支援」につなげることを目的に豊島区で生まれた、様々な職種、職層の職員が参加する組織横断的なプロジェクトです。

若手職員の自由な意見や発想を取り入れ、自治体初となる生理用品の無償配布や、当事者目線のホームページや支援リーフレットの作成、SNSを活用したターゲティング広告の実施など、スピード感をもって取り組んでいます。

また、民間支援団体と連携した会議や取組、プロジェクトの趣旨に賛同いただいた企業と連携したPRキャンペーン、学生と連携したワークショップ等も実施しています。

今後も民間団体や企業、当事者世代である学生等との連携を一層強化し、様々な取組を進めていきます。



池袋ハロウィンコスプレフェスティバルでは、職員もコスプレをして周知を行いました！

コラム 17:若者の居場所創出事業

近年、家庭や学校、職場といった生活の中で自分の居場所を見出せないと悩む子どもや若者が増加しており、安心して過ごせる居場所の必要性が一層高まっています。

こうした課題に対応するため、豊島区では、都市開発事業者が保有する遊休地等(空き家)を無償で借り受け、それを若者支援団体に無償提供(転貸借)し、若者の居場所運営や居住支援など多様なプログラムを提供してもらうことで、若者支援を推進します。

運営に必要な空き家の改修経費等を区が補助、負担することで、若者支援団体の負担が軽減され、より安定的で継続した支援が可能になります。

この取り組みは、困難を抱えた若者が気軽に集い、相談やつながりを作ることができる居場所を提供することで、孤独・孤立の解消及び予防を図り、自立や社会参画に向けた継続的支援を行うことを目的とします。また、居場所を起点に周辺地域の賑わいを創出し、豊島区の魅力を高めることも期待されています。



※写真はイメージ